次世代シニア
楽しみの時層

◎公益財団法人ハイライフ研究所では、平成二十八年、次世代高齢者研究の一環として50代から70代前半（昭和16年～昭和40年生まれ）の男女を対象に生活行動、生活意識調査を実施、その調査結果に研究員の視点を交え「次世代シニアと現在形シニア、その意識と行動」と題したコラムを連載してまいりました。

その続編ともいえる今回のシリーズは、同調査で自由回答形式にて収集した「人生の各時期の楽しみの生活史」を「時層」と名づけた上で、次世代シニアにみる「世代の共通体験や個人史」に焦点を当てそこから培われた価値観や幸福観を探ってまいります。２０２０年を過ぎる頃から高齢者の仲間入りする次世代シニアの「時層」から浮かび上がる現在形シニアとの違いにも注目してまいりたいと思います。

▼次世代シニアと現在形シニアの定義

①次世代シニア
１９５６年～１９６５年生まれ（調査時51～60歳）

②現在形シニア
１９４１年～１９５０年生まれ（調査時66～75歳）

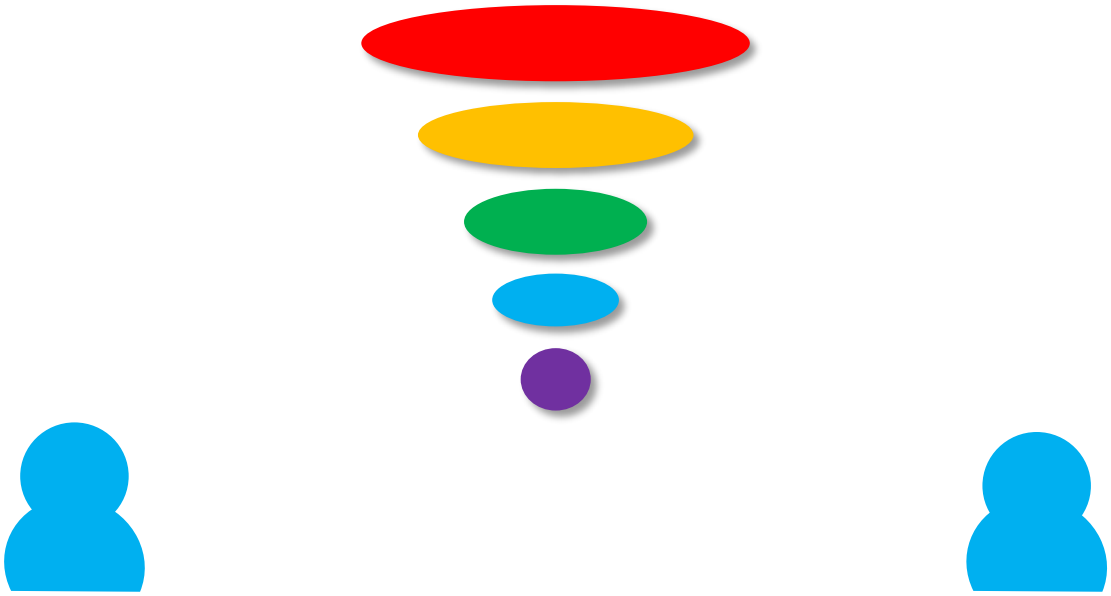
▼前の連載同様「仮説的」な読み解きや、「一生活者」として感じた生きるためのヒントなども添えていきたいと考えています。ぜひご一読下さい。

公益財団法人ハイライフ研究所

執筆　主任研究員　福與宜治

＜ハイライフ研究所「次世代高齢者調査」調査概要＞
①調査対象　東京30km圏に居住する満51歳～75歳の男女
②標本数（有効回収数）500　51～55歳・56～60歳・61～65歳・66～70歳・71～75歳　男女計各100
③標本抽出法　エリアサンプリング法　④調査方法　留置法（訪問調査）　⑤調査時期　平成28年10月～11月

次世代シニア
楽しみの時層



第２回
趣味とスポーツ、旅行で辿る
「楽しみの時層」

第二回 趣味とスポーツ、旅行で辿る「楽しみの時層」

第２回は「趣味、娯楽、スポーツ、旅行」分野の回答から「趣味」と「スポーツ・旅行」に分けて、世代間と男女間の異なる傾向や時代背景をみていきたいと思います。

＜表の見方＞

①「10代の頃」「20･30代の頃」など年齢区分ごとに、過去をふりかえりテーマに即して記入されたワード（人名・作品名など）を属性別に記載した表です。

②出現したワードは記入人数に関わらず記録しました。矢印部分の定義は以下の通りです。

赤い矢印　：「10代」で出現し、他の年代区分でも出現したことを示す。

薄青矢印　：一度出現したものが、次の年齢区分では出現せず、その後また復活した場合の空白期間を示す。

橙色矢印　：「20･30代」で初めて出現し、他の年代区分でも出現したことを示す。

紫色矢印　：「40･50代」で初めて出現し、次の年齢区分でも出現したことを示す。

③今回、年齢区分内の時期で一定人数以上の記載がある出現事項について★印（4-5人以上）★★（10人以上）の印を付けました。世代に特徴的なものをみる上での参考にしています。

③留意点

・各年齢区分の同じ行にあるもの同士の代替関係はありません。新たに出現したもので空欄を埋める形式となります。

・また矢印で示されたものは、「個人の中で継続しているもの」「別の人が新たに取上げたもの」が混在しています。この点を精緻化するには標本数が少ないこと、過去を辿って自由に回答してもらうことを優先したため記入方法の細かな指定をしていないことも理由に挙げられますが、「世代の共通体験や特徴を把握するには充分」であると判断しております。「強い記憶に残る好きだったものが何なのか」、世代の時層を辿る年表としてご覧下さい。

（表のサンプル）

現在形シニア・男性

10代	20･30代	40･50代	60･70代
（テレビ）プロ野球・スポーツ中継	→	→	→
（テレビ）歌番組	→	→	→
（テレビ）大河ドラマ	→	→	（テレビ）朝ドラ
（テレビ）プロレス中継	→	（テレビ）ゴルフ・競馬中継	→
（映画）石原裕次郎もの	→	（テレビ）笑点	→
（映画）任侠もの	→	（テレビ）相棒	→
（映画）007シリーズ	→	（ラジオ）大沢悠里のゆうゆうワイド	→
（映画）西部劇（シェーン他）	→	（テレビ）科捜研の女	（テレビ）ドクターX
（映画）日本映画・洋画	→	（テレビ）はぐれ刑事	（テレビ）韓国ドラマ
（テレビ）相撲中継	→	→	→
（映画）時代劇・チャンバラ	→	→	→
（テレビ）米国ドラマ	（テレビ）日本のドラマ	→	→
（テレビ）ローハイド	（映画）つりバカ日誌シリーズ	→	（テレビ）グルメ番組
（テレビ）相撲中継	（映画）アクションもの	→	（テレビ）歴史番組
（ラジオ）オールナイトニッポン	（テレビ）格闘技	→	（テレビ）しくじり先生
（ラジオ）深夜放送	（テレビ）イレブンPM	（テレビ）サスペンスドラマ	（映画）スパイ映画
（映画）若大将シリーズ	（ラジオ）ジェットストリーム	（テレビ）救命病棟24時	
（映画）モスラ・キングコング	（映画）黒部の太陽	（テレビ）ドキュメンタリー番組	
（映画）三本立て映画	（映画）寅さんシリーズ	（映画）ゴジラ・SF	
（映画）時代劇・チャンバラ	（映画）日活・東映・渡哲也	宇宙戦艦ヤマト・銀河鉄道999	
（映画）青春もの	（映画）スターウオーズ	アニメ	
赤胴鈴之助	（映画）エデンの東		
	（映画）スティーブマックイーン		
	（映画）ハリウッドもの		
	（映画）ヨーロッパもの		
	（映画）スペクタクル		

□調査対象のうち「次世代シニア」と「現在形シニア」の誕生年

●「次世代シニア」 1956年～1965年生まれ　●「現在形シニア」1941年～1950年生まれ

＜次世代高齢者調査・自由回答票の記入サンプル＞

◎ あなたの人生を振り返って、下にあげた５つのジャンルについて「楽しかったと・好きだったこと・夢中になっていたこと」を自由にお答えください。

（注１）なるべく短い文章や単語で簡潔にご記入ください。
（注２）全ての欄を埋める必要はありません。印象的なことだけをその印象的だったジャンルの年代の欄にご記入いただければ結構です。
（注３）ご記入いただいたこの用紙は、別途お渡しした「日常生活や今後の生活に関するアンケート」と一緒に係りの者にお渡しください。

＜ジャンル＞ ＜年代＞	１０代の頃	２０代～３０代の頃	４０代～５０代の頃	６０代～７０代の頃
ファッションブランド スタイル	ミニスカート	バーバリー	ユニクロ	
	ジーンズ	フィッチェ	ライトオン	
		ミチコ、ジョンコ		
エンターテインメント 音楽、芸能、映画 テレビ番組、ラジオ番組 雑誌、他	ドリフ	松田聖子	エンタの神様	
	ビンフレディ	ザ・ベストテン	がキっか（笑ってはいけない）	
	うわさのチャンネル	おれたちひょうきん族		
趣味、娯楽 スポーツ、旅行	魚釣り（川釣り）	魚釣り（海釣り）	魚釣り（渓釣り）	
	木ドバイ	自動車	家族旅行（温泉）	
	バレーボール			
食べ物、飲み物 食事、飲食店	コーラ、ファンタ	ビール、バーボン	第3のビール、ハイボール	
	鶴肉	もつ焼き	レバ刺	
		スナック（飲み屋）	食べ放題の店	
街、ショップ、施設	ゲームセンター	ディズニーランド	結婚式、ショップ	
	ディスコ（新宿）	ディスコ（六本木）	コストコ	

1.『趣味』で辿る楽しみの時層

①男性

次世代シニア・男性

	10代	20・30代	40・50代
趣味	★バイク・ツーリング	★	★
	クルマ・ドライブ	★	★
	★釣り	★	★
	★楽器演奏（ｷﾞﾀｰ・ﾊﾞﾝﾄﾞ他）		
	読書		★
	パチンコ・パチスロ		★
	★麻雀	★	
	★ゲーム（PC・ｲﾝﾍﾞｰﾀﾞｰ他）		
	ビリヤード		
	★ディスコ	★	
	写真撮影		
	能楽鑑賞		
	プラモデル製作	映画	★
	切手収集	観劇	
	ゲームセンター	カラオケ	★
	花札	パソコン	★食べ歩き
	将棋	海水浴	散歩しながらの写真撮影
	ラジコン	絵画	街歩き
	レコード収集	オーディオ	日帰りスパ・岩盤浴
	ウオークマン（音楽を聴く）	ダーツ	日曜大工
		自作パソコン	ミニカーコレクション
		ミニ四駆	ギターを買う
		経営ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄの勉強	

「次世代シニア・男性」は1956年から1965年までに生れた人たちです。彼らが10代から40･50代に至るまで続けて出現する分野は「クルマ・ドライブ」「釣り」「楽器演奏」「ゲーム」など多く見受けられますが、中でも「バイク・ツーリング」は特徴的です。例えば1956年生まれが16歳となり「自動二輪免許」を取得できるようになるのは1972年。当時はこの免許があれば無制限に大型車に乗れた時代でした。また中小排気量車が中心だった日本製バイクにも高品質･高出力な大型バイクが登場したこともあり、70年代は第一次バイクブームとも言われました。70年代半ばには免許制度の変更もありブームは収束したものの、80年代にはさらに大きなブームが訪れます。「鈴鹿8時間耐久」に象徴されるロードレース人気が沸騰するのです。こうした中で次世代シニアは10代から20代を過ごしました。リターンライダーとして50代から楽しみを再開した人も、ずっと続けてきた人も、若い頃の思いを乗せて走っているのではないでしょうか。今後、身体能力の衰えと向かい合いながら、どのように楽しみ方が進化していくのかにも注目したいところです。また四輪車の自動運転化が進む中で「クルマ」好きでもある彼らの楽しみがどう変化していくかにも注目したいところです。

「ゲーム」にも目を向けてみましょう。ゲームセンターや喫茶店などの飲食店でハマる人が続出したのが「インベーダーゲーム」です。流行した1979年当時、次世代シニアは14歳から23歳でした。そして「ファミリーコンピューター」発売が4年後の1983年（同18歳から27歳）。同年には大人向けともいえる戦略シミュレーション「信長の野望」も発売されます。子育て期には子供と一緒にゲームを楽しみます。ゲームやアニメ、漫画にはまり「オタク」と呼ばれつつサブカルチャー発展に寄与した世代ともいえましょう。そういえば、バイクに乗るヒーロー「仮面ライダー」が特撮テレビドラマとしてスタートしたのは1971年。現在もシリーズは続いています。親から子へ、サブカルチャーの楽しみをつなぐ伝道師としての次世代シニア像も浮かび上がります。

『次世代シニア、楽しみの時層』　第二回 趣味とスポーツ、旅行で辿る楽しみの時層

現在形シニア・男性

	10代	20・30代	40・50代	60・70代
趣味	★釣り	★	★	
	オートバイ・ツーリング			
	模型製作（鉄道模型他）			
	楽器演奏（ｷﾞﾀｰ・ﾊﾞﾝﾄﾞ他）			
	写真撮影（写真・ビデオ）			
	麻雀	★		
	読書			
	音楽鑑賞（レコード他）			
	映画鑑賞			
	将棋			
	切手収集	★クルマ・ドライブ	★	
	蝶々収集	競馬・競輪		
	将棋	カラオケ	★	
	ローラースケート	鉄道研究（会）		
	デート	パチンコ		
	落語	遊園地（後楽園遊園地 他）		
	東京オリンピック	オーディオ		
	鬼ごっこ・缶けり	合唱	★園芸・花・植木	
	めじろ捕り	クラシック音楽レコード収集	プログラミング	
		歌声喫茶	テレビゲーム（ﾃﾄﾘｽ他）	社交ダンス・ダンス
		ラジコン（ボート・飛行機）	パソコン	日曜大工
		演劇鑑賞	アマチュア無線	インターネット
		プロレス	アンティーク収集	木工
		エアガン	散歩	街歩き
		酒場巡り	海水魚飼育	吹き矢
		飲酒で談笑	CATV	
		相撲見物		

「現在形シニア」は1941年から1950年までに生れた人たちです。まず彼らがどんな時代を過ごしてきたか、ほぼ中心年齢1946年生まれの歳とともにみていきましょう。1964年、東京オリンピックの年に彼らは18歳を迎えます。多くの人が高校を卒業してこの時期に仕事に就きます。石油危機で戦後初のマイナス成長となった1974年には28歳となり家族を形成し始めます。そして日本経済がバブル期に入る1987年頃には40代の働き盛り、リーマンショックの2年前（2006年）には多くの人が定年期を迎えました。10代から40・50代まで続けて出現する分野の中では「釣り」と「模型製作」、「麻雀」が気になるところです。また切手や蝶などコレクターとしての側面があるのも彼らの特徴です。平成28年社会生活基本調査（総務省）によると「釣り」の行動者率は40代前半男性が最も高いものの、平均行動日数は男性50歳以降、年齢が高くなるにつれて多くなっています。「麻雀」は60年代から70年代にかけて週刊誌での阿佐田哲也「麻雀放浪記」の連載や名人戦、専門誌の創刊などもありブームを呼びました。そんな中で若い時期を過ごし麻雀に親しんだ姿が浮かびます。従来は不健康イメージもありましたが、近年では老人ホームを描いたドラマ「やすらぎの郷」でもたびたび麻雀シーンが取上げられました。脳の健康に役立つイメージもあるようです。同じ楽しみでも、時代や加齢とともに行うことの意味合いは変化していくということを物語っています。 60・70代で麻雀の記載はなかったもの再開の可能性をうかがわせます。現在形シニア60・70代の「日曜大工」や「街歩き」は、次世代シニアも既に楽しみ始めており、趣味についての共通点は少なくないとも感じます。

②女性

次世代シニア・女性

	10代	20・30代	40・50代
趣味	★コンサート・ライブハウス		★
	読書		
	楽器演奏（ｴﾚｸﾄｰﾝ・ﾊﾞﾝﾄﾞ他）		
	東京ディズニーランド(シー)	★	
	音楽鑑賞		
	★ディスコ	★	
	海水浴		
	ドライブ	★	
	花火		
	ボランティア	映画鑑賞	
	ジャニーズのおっかけ	★カラオケ	
	考古学	ビーズアクセサリー作り	
	FFやCVSのアルバイト	手芸・洋裁・パッチワークキルト	
		遊園地・動物園・水族館	
		コーラス	ゴスペル
		トールペイント	子供の部活観戦
		アートフラワー	インターネット・ブログ
		茶道	観劇
		歌舞伎	落語
		社交ダンス	韓国語
		パチンコ	ママ友との食事会
		ビリヤード	ガーデニング
		酒飲み会	同窓会
		潮干狩り	ご朱印集め
		ゲーム(ドラゴンクエスト)	
		オートバイ	
		公園	

「次世代シニア・女性」も、ほぼ中心年齢1961年生まれの歳とともに趣味の時層をみていきましょう。前回のエンタメ編でも明らかなように彼女たちは10代から今日に至るまで「サザン・ジャニーズ系・ユーミン」などの音楽に触れながら過ごしてきました。18歳の1979年にはウォークマン発売、20代になるとマイケルジャクソン「スリラー」（1984年）に代表されるプロモーションビデオの活況、バブル景気の中での外タレ来日冠公演ラッシュと10代から20代にかけて音楽の楽しみ方が飛躍的に広がります。ライブの「そこでしか味わえない体験」の魅力が見直されて久しいですが、次世代シニア女性で「ライブ（コンサート・ライブハウス）」を楽しむ人は40・50代の時期にも多く見受けられます。20・30代でピークを示す「東京ディズニーランド」が開園したのは22歳の1983年。独身時代は友人や恋人と、子供が生れてからは家族で楽しむ第一世代だったかもしれません。もうひとつ「楽しみの時層」の観点で外せないのが「ディスコ」です。10代と20・30代の時期の変遷をみると17歳の1978年「サタディナイトフィーバー」が大ヒットしてディスコがブームとなり1980年代初頭のサーファーディスコ、ユーロビートブームを経て30歳の1991年ジュリアナ東京開業（94年閉店）辺りまでが楽しんだピークの時期だったと思われます。ダンスゴコロはフィットネスなど場所を変えて健在かもしれません。「手芸・洋裁」は20・30代から今に至るまで行われている楽しみです。身近な生活文化を彩る創作活動は独りでできる上、仲間へ披露する喜びも含め満足度の高い趣味活動のひとつといえそうです。

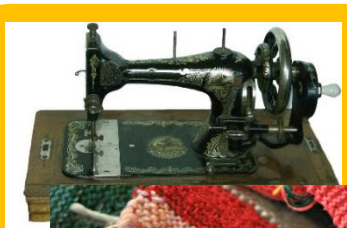
『次世代シニア、楽しみの時層』　第二回 趣味とスポーツ、旅行で辿る楽しみの時層

現在形シニア･女性

	10代	20･30代	40･50代	60･70代
趣味	★読書（推理小説 他）	★	★	
	ダンス（社交ダンス･他踊り）	★	★	
	映画鑑賞	★		
	★手芸･和裁･洋裁･洋服ﾃﾞｻﾞｲﾝ	★	★	★
	楽器演奏（琴･ﾋﾟｱﾉ･ｷﾞﾀｰ他）			
	生花･アートフラワー			
	観劇	カラオケ	★	★
	合唱	木彫り		
	絵画（油絵）	小物（小物つくり･型染め）		
	書道	園芸･ガーデニング		
	クラシックバレー	絵画（俳画　水墨画　切り絵）		
	植物採集	人形作り（日本人形 他）		
	プロレス	★ドライブ		
	ダンスパーティ	釣り		
	そろばん	料理（料理教室　他）		
	海水浴	競馬		
	学校でワイワイ	着付け	歌舞伎鑑賞	★
	親とのたまの外出	海水浴	ミュージカル鑑賞	
	友人宅のクリスマスパーティ	遊園地･動物園	★コンサート･ライブ	
	縄跳び･石蹴り･かけっこ	コンパ	★絵画鑑賞	★
		東京オリンピック	朗読	
			俳句	
			家庭菜園･農地での野菜作り	★
			★友人との食事会（グルメ）	
			中国語	
			観劇（都民劇場 等）	
			東京ディズニーランド･シー	
			ボランティア	
			歴史	
			数独	
			レザークラフト	食べ歩き
			ビーズアクセサリー作り	地域行事の手伝い
			ボーイスカウト野外活動	陶芸
				書　篆刻

「現在形シニア･女性」の楽しみの時層の特徴はなんと言ってもその分野の多さ、そして「40･50代で始めた楽しみ」が60･70代の今の楽しみに引き継がれていることです（紫の矢印の数！）。同世代の男性の時層一覧のそれと見比べて下さい。その差は一目瞭然です。様々な楽しみに挑戦し、そこで生れた人付き合いを育て、着々と人生後半戦の過ごし方の準備を進めた成果が現れていると感じます（それを意識しての行動か否かは別です）。

10代から続く項目で目立つのは「読書」「手芸」「ダンス」です。「読書」は他の層に比して顕著に多く出現する楽しみとなっています。活字世代、文学少女などの言葉をイメージさせます。推理小説好きはサスペンスドラマの視聴にもつながっていることでしょう。「手芸」は下の世代以上に多く見受けられる楽しみです。後から出てくる「木彫り」「小物手作り」「レザークラフト」「家庭菜園」を含め、「手作り」に楽しみを見出す傾向がみてとれます。20･30代から始めた「カラオケ」は今も重要な楽しみのアイテムです。40･50代以降に出現する「歌舞伎鑑賞」「美術鑑賞」と「友人との食事会（グルメ）」は、劇場や美術館に溢れる女性たち、街でみかける女性同士の元気な姿をみると頷けるものがあります。



2.『スポーツ、旅』で辿る楽しみの時層

①男性

次世代シニア・男性

	10代	20・30代	40・50代
スポーツ	★★野球	★	
	★★テニス	★	
	★★スキー	★★	
	★サッカー		
	★水泳（スィミング）	★	
	ゴルフ	★★	★★
	★卓球	★	
	★サーフィン		
	スケート		
	サイクリング		
	ウエイトトレーニング		
	★ボウリング	★	
	ヨット		
	★バレーボール		
	★バスケットボール	マラソン	
	陸上競技	スポーツクラブ	
	★ラグビー	ダイビング・スキューバダイビング	ジョギング
	★柔道	ウインドサーフィン	ウォーキング
	空手	ジェットスキー・水上スキー	トライアスロン
	ハンドボール	スノーボード	インラインホッケー
	アイスホッケー	アイスホッケー	ボディビル
	ボクシング	バトミントン	
	バトミントン	グライダー飛行	
（観戦）	野球観戦		
		サッカー・Jリーグ観戦	
		子供の試合観戦	
旅行など	旅行	★	★
	温泉旅行		★
	日帰り旅行		
	グループ旅行	★国内旅行	★
		★海外旅行	★
		家族旅行	★
		新婚旅行	
		卒業旅行	
		観光名所巡り	
		一人旅（国内・海外）	
（登山等）	登山		
		キャンプ・アウトドア	

ここでは「次世代シニア・男性」のほぼ中心年齢1961年生まれの歳で楽しみの時層を辿ることとします。彼らが生まれた頃の日本は空前のレジャーブームに沸きました。1963年観光基本法公布、翌年には海外観光旅行も自由化されました。この時期から人気が高まりつつあった「スキー」も11歳となる1972年の札幌オリンピックを契機にブームとなり、1987年（26歳）に映画「私をスキーに連れてって」がヒット、1993年（32歳）にスキー人口は1770万人（レジャー白書/日本生産性本部）とピークを迎えます。これは、ちょうど次世代シニアが「スキー」を楽しんだ時期とも重なります。ちなみに最近のスキー人口は当時の半分以下と低迷しています。

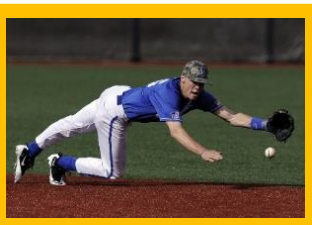
次は「旅行」に目を向けてみましょう。1961年生まれが22歳となる1983年に内閣府世論調査「今後の生活の力点」で「レジャー・余暇」が「住生活」を抜き1位となります。25歳となる1986年には海外旅行者数（観光庁・日本人出国者数データ）は初めて500万人を上回り1990年（29歳）には約1100万人と倍増します。国内に目を向けると26歳となる1987年に総合保養地整備法（通称リゾート法）が成立、バブル経済の中で全国各地にリゾート開発が急増、リゾートがブームとなりました（後にバブル崩壊で破綻が発生）。こうした時代背景の中で若い時期を過ごした彼らは海外旅行からリゾートライフまで、レジャーを大いに謳歌した世代といえましょう。

『次世代シニア、楽しみの時層』　第二回 趣味とスポーツ、旅行で辿る楽しみの時層

現在形シニア・男性

	10代	20･30代	40･50代	60･70代
スポーツ	★★野球	★★	★	
	★スキー	★★	★	
	★ボウリング	★		
	★テニス	★	★	
	バトミントン			
	マラソン			
	バレーボール			
	ダイビング			
	★スケート･ローラースケート			
	サイクリング･自転車競技			
	サッカー			
	卓球			
	水泳			
	ウエイトリフティング			
	筋力トレーニング			
	★バスケットボール	★★ゴルフ	★★	★★
	柔道	サーフィン	ソフトボール	
	体操	エアガン	ウオーキング	★
	ジョギング	クレー射撃	ラグビー	グランドゴルフ
		ケイビング（洞窟探検）		ゲートボール
				吹き矢
（観戦）		★野球観戦	★	
		サッカー観戦		
		プロレス観戦		
旅行など	古都旅行（京都･金沢等）			
	一人旅			
	韓国旅行	★旅行	★	★
	国内周遊旅行	★海外旅行	★	★
	一人旅	夫婦旅行	★	★
	新幹線旅行	★国内旅行	★	★
		友人との旅行		
		グループ旅行		
		一泊二日旅行･小旅行		
		会社慰安旅行	★温泉旅行	★
		写真撮影旅行	会社仲間積立旅行	
			仕事で国内海外見聞旅行	
（登山等）	★登山	★		
	ハイキング			
		キャンプ		

「現在形シニア・男性」のスポーツで特に目立つのは若いころの「野球」と中高年になっての「ゴルフ」です。前の項では取り上げませんでしたが「ゴルフ」は次世代シニアでも多くの人に好まれています。
では、「現在形シニア」のほぼ中心年齢1946年生まれの歳とともに時層を辿りましょう。12歳となる1958年、長嶋茂雄が読売ジャイアンツに入団、その活躍でプロ野球人気が高まり、河原には野球少年で溢れていました。17歳の1963年には高校野球も参加校数2000を突破して野球熱はますます高まります。長嶋が現役引退を表明した1974年には28歳になりました。学校の部活、職域、地域のクラブ、少年野球の世話など楽しみ方を変えながらも野球好きであり続けている現在形シニアは少なくなさそうです。
20･30代から60･70代に至るまで多くの人が「ゴルフ」を楽しんでいます。1970年代前半に日本のゴルフ場数は急増、29歳の1975年には1000を突破、その後、バブル景気と前出のリゾート法の影響で46歳の1992年には2000を突破しました（日本ゴルフ場事業協会資料）。このようにゴルフの大衆化が進む中でプレイを楽しみ始めた彼らですが、純粋にゴルフを楽しむだけでなく仕事の延長としての「接待ゴルフ」も少なからずあったと思います。60代を過ぎれば純粋にゴルフを楽しめるのではないでしょうか。昨今では若者のゴルフ離れと現在形シニアに含まれる団塊世代の70代突入の影響もあり競技人口は減少傾向にあるとのことです。体力の衰え、仲間の有無、経済面などシニアが楽しむための壁を取り払う工夫が供給側にも求められます。



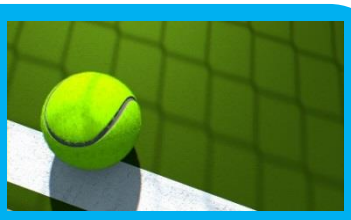
②女性

次世代シニア・女性

	10代	20・30代	40・50代
スポーツ	★★テニス	★★	★
	★★スキー	★★	★
	★バレーボール		
	★水泳		
	ゴルフ	★	
	★ボウリング		
	★サーフィン		
	バトミントン		
	ソフトボール		
	卓球		
	★バスケットボール	★ダイビング	★ヨガ
	ハンドボール	エアロビクス	スポーツジム
	器械体操	ジョギング	ストレッチ
	陸上競技	ボディボード	ウオーキング
	ジェットスキー	サイクリング	筋トレ
		ラケットボール	太極拳
		スケート	スノーボード
			シュノーケリング
（観戦）	★野球観戦	★	★
	大相撲		
	バレーボールワールドカップ	サッカー	
		ラグビー	
旅行など	★海外旅行	★★	★
	★国内旅行	★★	★★
	家族旅行	★	★
	温泉旅行	★	★
	友人との旅行	★	
	ペンション	★★旅行	
		★海・山	★夫婦旅行
		一人旅	日帰りバスツアー
		大学仲間との旅行	ペットとの旅（犬と泊まれる宿）
		会社の保養施設で飲み会	娘とジャニーズ旅行
		寝台列車の旅	ご朱印巡り旅行
（登山等）	登山		★
	キャンプ		
		ハイキング	
		★アウトドア	低山登山

「次世代シニア・女性」のスポーツで目立つのはやはり１０代から２０･３０代をピークとした「テニス」と「スキー」です。レジャーが生活の中で存在感を増した時代に若い頃を過ごし、リゾートライフや「海外旅行」を謳歌した世代といえましょう。当時は「夏は軽井沢、冬は苗場で流行のブランドを身にまといユーミンを聴きながらテニスやスキーを楽しむ姿」が多く見られました。「ペンション」というワードもこの世代を象徴しています。「生活場面を楽しむ」志向は２０･３０代の「アウトドア（キャンプ・BBQ等）」にも発揮されます。

４０･５０代になると「スポーツジム」に通うなど「フィットネス」に関連するスポーツが目立つようになります。「ストレッチ」「筋トレ」、そして「ヨガ」。汗を流した後は友人と一緒にランチ、といった場面も想像されます。誰と何をどのように楽しむか＝「場面を楽しむこと」を重視する姿は「大学仲間との旅行」「会社の保養所での飲み会」「ペットとの旅行」「娘とジャニーズ旅行」といった記述が多いことにも表れています。
また、旅行は海外から国内へ、スポーツはリゾートから日常へと向かっている傾向もうかがわせます。



『次世代シニア、楽しみの時層』　第二回 趣味とスポーツ、旅行で辿る楽しみの時層

現在形シニア・女性

	10代	20・30代	40・50代	60・70代
スポーツ	★スキー	★★		
	★テニス	★★	★	
	★ボウリング	★★		
	★バレーボール			
	スケート・アイススケート			
	サイクリング			
	ソフトボール	ゴルフ	★	
	卓球	ヨガ		
	マラソン	水泳		
	サーフィン	剣道		
	縄跳び	エアロビクス	スポーツジム・フィットネスクラブ	★
		ホッピング	ストレッチ	
			バトミントン	ウォーキング
			インディアカボール	ホットヨガ
				サーキットトレーニング
				自彊術
（観戦）	野球			
	バレーボール	フィギュアスケート		
	プロレス		サッカー	
旅行など	旅行	★	★	★★
	国内旅行	★	★★	★
	友人との旅行	★	★	★
	家族旅行	★	★	
	親との旅行	夫婦旅行	★	★
	修学旅行	★海外旅行	★★	★
	卒業旅行（高校）	★グループ旅行	★	★
	合宿	★社員旅行	★温泉旅行	★
	スキーバス	山・海	★バスツアー	★
		新婚旅行	自治会・町内会旅行	
			仕事の旅	小旅行・近場の旅
				寺社の旅
				姉妹旅行
（登山等）	登山	★		
	キャンプ			
			ハイキング	

「現在形シニア・女性」ほぼ中心年齢の１９４６年生まれが２４歳となる１９７０年に当時の国鉄（今のJR）が「ディスカバージャパン」キャンペーンを始めます。同年、若い女性向け（今の現在形シニア/団塊世代）の雑誌「アンアン」、翌年には「ノンノ」が創刊されました。両雑誌が特集する旅の洒落たスタイルに共感し雑誌片手に旅をする「アンノン族」が登場、話題となりました。そのスタイルとは、従来の観光地旅行と異なり、例えば小京都といわれる町などを訪れ、地元の人とふれあい、町並みや食を楽しみながら時間を過ごす、といったものでした。女同士で「グループ旅行」を自由に楽しみ始めた最初の世代といえるかもしれません。こうして振り返ると、このような旅のスタイルは現在、テレビの旅番組に継承されているのではないでしょうか。従来、雑誌が果たした役割をテレビやインターネットが担いつつ、現在形シニアの「友人との旅」は続きそうです。

スポーツに目を転じてみましょう。「６０・７０代」になると球技が減り、「４０・５０代」から始めた「スポーツジム」通いなどのフィットネス系スポーツが増えています。「健康寿命」は男性72.14歳、女性74.79歳で年々伸びているとのことです（厚生労働省2016年国民生活基礎調査より推計）。そして現在形シニアは、その寿命と前後する年齢になっています。生活習慣を改善し、健康寿命を伸ばす上でも無理のないスポーツを続けることは大切です。続けるために重要なのは「意志の力」ではなく、「楽しむ力」ではないでしょうか。

■結びに

今回は「趣味とスポーツ、旅行」分野での「楽しかったこと、好きだったこと、夢中になったこととして想起された事柄」を世代ごとに集約し、年齢区分ごとにみることで「時層」を確認してまいりました。各世代の男女が楽しんできたものの中からそれぞれ特徴的な分野を時代背景とともに取り上げてみました。私があらためて感じた事は、以下のとおりです。皆様はどのように感じられたでしょうか。

①やはり大きい「20代」の引力

当財団「次世代高齢者調査」で「過去に戻れるとしたら戻りたい時期」を聞いた結果、世代･性別を問わず、最も高いスコアを示したのは「20代の頃」でした。短絡的に関連付けるべきものではありませんが「楽しみの時層」を辿ってみると、その世代を特徴付ける「趣味、スポーツと旅行」は20代の頃の楽しんだものの中に多く見受けられます。次世代シニアに限らずこれからの楽しみのヒントが欲しいとき「20代の自分は何が楽しかったか」と対話してみるのもひとつの方策であります。

②やはり大きい「時代」の引力

「レジャーブームの中で20代の頃を過ごした」など、世の中の動きや流行が「楽しみの形成」に大きな影響を与えるということを今更ながらに再確認させられます。現在25歳の若者の楽しみは何でしょうか。彼らが高齢期を迎える40年後の楽しみのあり方は、今を生きる彼らの楽しみの中に息づいていると考えることができます。

③そして、楽しみはその味わいを変えて繰り返す

旅行の楽しみは「計画の楽しみ」「旅行する楽しみ」「思い出す楽しみ」と反芻するところにあるといいます。どんな楽しみにも同じことはいえそうですが比較的短いサイクルをまわせるところが特徴です。一方、人生という長い道のりの中では、同じ楽しみ（趣味など）でも加齢や生活環境の変化の中でその意味合いを変えて反芻されることがあります。「進化」が環境への適合ならば、それは個人の中での「楽しみの進化」といえます。意味合いが変われば味わいも変わる。楽しみは味わいを変えて繰り返すと考えると、捨ててしまった楽しみの中に意外な「これからの楽しみ」がみつかるかもしれません。

最後までお読みいただきありがとうございました。

次回をお楽しみに。

公益財団法人ハイライフ研究所